

多発性小腸 gastrointestinal stromal tumor の 1 症例

なか やま よう こ¹⁾ すぎ やま あきら
 中 山 瑶 子¹⁾ 杉 山 章²⁾
 まつ ばら たけし た じま よし つぐ³⁾
 松 原 毅 田 島 義 証³⁾

キーワード：Gastrointestinal stromal tumor (GIST)，多発性 GIST，小腸

要 旨

症例は70歳女性。繰り返す腹痛と下痢を主訴に近医受診された。腹部 CT 検査で小腸腫瘍が疑われたために紹介となり，消化管精査で小腸に2か所の粘膜下腫瘍を認めた。確定診断と治療を目的に腹腔鏡手術を行った。術中に先の病変以外に2か所の小腸腫瘍（合計4個）を認めたために切除したところ，組織学的にすべての腫瘍が GIST (gastrointestinal stromal tumor；以下 GIST と略記) と診断された。切除した GIST の最大径は 30 mm，核分裂像数<5/50HPFs であり，低リスク GIST (Modified Fletcher 分類) であった。現在術後2年が経過しているが，再発は認めていない。遺伝的疾患に合併する GIST を除く多発性の GIST は比較的まれであるが，多発する可能性を念頭においた入念な検索が必要である。また，低リスク GIST であっても術後長期経過中に再発を認めた報告もあり，今後も嚴重な follow up が必要と考える。

はじめに

GIST (gastrointestinal stromal tumor；以下 GIST と略記) は，消化管において最も高頻度に発生する間葉系腫瘍ではあるが，ほとんどの場合は単発性で，家族性多発性 GIST や神経線維腫症 1 型，傍神経節腫を合併する Carney triad な

どにみられる多発性 GIST 以外での多発発生例はまれとされる。今回，術前に2個認められた小腸粘膜下腫瘍に対して腹腔鏡手術を行ったところ，術中にさらに2個，合計4個の小腸腫瘍が認められ，いずれの腫瘍も GIST と診断された，多発性散発性小腸 GIST の症例を経験したので報告する。

症 例

症例：70歳，女性。

主訴：腹痛，下痢。

現病歴：2か月前に，腹痛に引き続き下痢症状が出現した。以降，同様の症状を繰り返すために

Yoko NAKAYAMA et al.

1) 大田市立病院外科

2) 出雲市立総合医療センター外科

3) 島根大学医学部消化器・総合外科

連絡先：〒694-0063 島根県大田市大田町吉永1428番地3

大田市立病院外科